

不安定労働 との闘い

派遣社員や請負労働者、パート労働者や日雇い労働者、期間工労働者など非正規労働者の数が急激に増加しており、不安定労働は、今や日本のみならず、世界的な問題となっています。かつては『一億中流社会』と言われた我が日本においても、「どれだけ働いても豊かになれず、働いても報われないという人たちが大勢生まれ、泥流のように川底に滞留している深刻な状況です。働いても、生活保護水準以下の暮らしを強いられている人たち、『ワーキングプア』が大量に生まれていることは、身近で深刻な問題です」(放送大学宮本みちこ教授)

我々金属の製造業現場においても、ますます非正規労働者の割合が増加しており、企業にとっては、使い勝手がよいが、働く者の立場からみれば、基本的な権利でもあるディセントワーク(人間としての尊厳のある労働)の欠如が問題になっています。この現象は、労働組合がこれまで懸命に労使交渉で獲得してきた、人間としての安定した生活を

送れるような労働条件、やりがい・働きたいのある労働と相反するものです。その意味で、不安定労働との闘いは、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を追求する労働組合が取り組むべき重要な課題であると言えます。

金属労協(IMF・JC)が加盟するIMF(国際金属労連)は、ITUC(国際労働組合総連合)と連携して2008年10月7日を「不安定労働に対抗する世界行動デー」に設定。この日を中心に、全世界の金属の労働者の仲間が不安定労働に対抗する何らかの行動を一齐に行うことにしました。

今号では、「不安定労働に対抗する世界行動デー」に向けての金属労協(IMF・JC)の決議や具体的な行動について紹介すると共に、インドやインドネシアなどアジアの不安定労働の実態やIMFキャンペーン資料、学者の寄稿などを掲載します。

(文責・編集) 金属労協組織総務局



Illustration : しおたまこ